



環境報告書2004

be fresh, be happy!



FUJIYA



CONTENTS

ごあいさつ	2
経営理念と環境方針	3
2003年度の取り組み状況（ハイライト）	4
事業活動のマテリアルバランス	6
環境マネジメント	
（1）環境目的・目標および実績概要	7
（2）環境推進体制	8
（3）ISO14001への取り組み	9
（4）法令等の遵守状況	12
（5）環境会計	13
環境保全活動	
（1）省資源・省エネルギーへの取り組み	14
（2）廃棄物の減量化とリサイクルへの取り組み	17
（3）環境汚染物質排出量の削減への取り組み	19
（4）環境に配慮した商品設計	20
（5）グリーン購入	20
（6）環境コミュニケーション	21
社会貢献活動	22
不二家の環境への取り組みの歴史	24
会社概要	25
環境報告書2004のご報告にあたって	26
用語集	27

報告範囲

この報告書は2003年度における株式会社不二家の環境活動の取り組みを報告いたします。なお、環境負荷データ及び環境会計データに関しては、2004年3月までにISO14001(*1)の認証取得を完了している4工場（平塚工場、秦野工場、富士裾野工場、野木工場）のデータを収集・記載しています。

作成部署:環境対策委員会

(*1)巻末の用語集をご参照ください





ごあいさつ



当社は、創業以来今日まで、「愛と誠心と感謝をこめて、お客様に愛される不二家になりましょう」という社是と「常によりよい商品と最善のサービスを通じて、お客様に、おいしさ、楽しさ、便利さ、満足を提供し、社会に貢献することが不二家の使命である」という経営理念に沿って、事業活動を進めてまいりました。そして2002年には、不二家の役員を始めとし、全ての従業員が企業倫理を再認識し、法令を守り、お客様第一の姿勢で業務遂行をするための行動規範及び行動指針を制定しました。当社はその中で、今日的な地球環境問題に対する積極的な取り組みとして、環境負荷を低減し、リサイクルしやすい製品の開発に努めるなど、省資源、省エネルギー、廃棄物の排出削減と、自然環境の保全に努めることを定め、21世紀の持続可能な環境経営を目指した事業活動を推進してきております。

この環境報告書の発行は今年で2回目となります。環境省の定めるガイドラインにできる限り沿って、当社の環境への取り組み状況をまとめておりますが、常に現状を第一歩と考え、今後も環境保全活動を通じた企業価値の向上と社会貢献に取り組んでまいります。本報告書を通して、不二家の環境保全への取り組み姿勢、活動内容を少しでもご理解いただきますとともに、今後の活動に向けてご意見、ご感想を賜れば幸いです。

2004年6月

株式会社 不二家 代表取締役社長

藤井林太郎



経営理念と環境方針

不二家は、創業以来、「社是」及び「経営理念」に沿って、事業活動を進めてきました。経営理念を遂行するための行動規範には、環境問題への積極的な取り組みを規定しています。

2000年2月には、行動規範に基づく環境問題への積極的な取り組みの基本方針である「環境宣言」を制定し、富士裾野工場を皮切りにISO14001の認証取得活動への取り組みを開始しました。

より一層の環境経営基盤を確立するために、2003年6月に環境宣言を更新しています。

社是 愛と誠心と感謝をこめて、お客様に愛される不二家になりましょう

経営理念 常により良い商品と最善のサービスを通じて、お客様に、おいしさ、楽しさ、便利さ、満足を提供し、社会に貢献することが不二家の使命である。

行動規範 私たちは、環境問題に積極的に取り組み、社会・自然環境の保全に努めます。

環境宣言

基本理念

この恵み豊かな地球環境を守り、健全且つ安全で自然環境を含む生態系が保全されることが人類共通の重要課題であると認識致します。

株式会社不二家は創業以来「食」を通じて、人々の健康と安全を守り続けると共に、豊かさ、そして安らぎを育み、生活文化創造に貢献して参りました。

今後は、更に事業活動のあらゆる側面で地球環境への負荷を最小限とするよう努力し、「環境との調和」を図るよう努めて、人と自然との共生を図り、「地球環境にやさしい企業」を目指して行動して参ります。

基本方針

1. 事業活動商品、業態、サービス等がかかわる著しい環境側面を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、技術的、経済的に可能な範囲で、環境目的、目標を定めて、環境保全活動の継続的な向上、改善を図ります。
2. 環境関連の法律規制、協定等の遵守はもとより社会的要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。
3. 事業活動における省資源省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクル及び環境汚染物質排出量の削減に取り組みます。
4. 地域における緑化環境美化活動、環境保全への支援、活動に取り組みます。
5. 全従業員に対して環境教育や啓蒙活動を積極的に行い環境保全に関する意識向上を図ります。

「環境との調和」を目指し、環境問題への取り組みを具体的に推進し、併せて社会への貢献を図る事を宣言致します。

2003年6月26日

株式会社不二家 環境対策委員長
専務取締役 小城 修一



2003年度の取り組み状況 (ハイライト)

野木工場認証取得

さらなる環境活動に向けて

野木工場が認証取得



スコッチケーキ

不二家の商品の中でも洋菓子を中心に生産しているのが野木工場です。2003年度、野木工場でもISO14001の認証を取得しました。これからも、私たちは環境への取り組みを引き続き行ってまいります。



三角ショートケーキ



チョコ生ケーキ

2004年度には、不二家の主力工場である埼玉工場でISO14001の認証を取得すべく活動を行なっています。埼玉工場では、洋菓子を始め、総合的な商品の生産を行っています。

低公害車の導入

環境負荷物質の削減

ハイブリッドカーへ切り替え中



低公害車の積極導入

環境負荷を低減するために、ハイブリッド型の低公害車を積極的に導入しています。現在、関東地区のデリバリー車(68台)の約4割に導入しています。

また、輸送用の大型車についても、ハイブリッド式冷凍車を導入し、排気ガスの排出を減らしています。さらに、順次DPF装置を取り付けており、PM(粒子状物質)の除去に努めています。



2003年度の取り組み状況 (ハイライト)

ペコちゃんの森

森を育む活動 黒姫高原「ペコちゃんの森」



ペコちゃんの森は長野県最北部(最寄駅はJR信越線黒姫駅)新潟県との県境付近に位置しています。ペコちゃんの森は、自然文化創造会議(CCC)の副議長を務める作家のC・W・ニコル氏との協力でうまれました。「C・W・ニコル・アフアの森」の一画を占めるのが『ペコちゃんの森』です。

「アフアの森」は戦後開拓地として切り開かれたものの、農地としては利用不能で打ち捨てられていた荒地を、18年前にニコル氏が個人的に買い取り、少しずつ手を加えることによって本来の姿によみがえらせた「新しくも美しい森(ニコル氏)です。

ファミリー文化研究所では、この「新しくも美しい森」に隣接する敷地を取得し、「アフアの森」の一部として参加しました。2000坪強の「小さな森」ですが、この「小さな森」を『ペコちゃんの森』と名付けて、我々の活動の象徴にしてゆきたいと考えています。



ひらつか環境フェア

私たちの活動を皆さんに ひらつか環境フェアに出展



『ひらつか環境フェア』

平塚工場では、環境共生都市を目指す平塚市と平塚市環境共生型企業懇話会¹が主催する「環境フェア(2004年2月3～10日 平塚市役所 1階 市民ホールにて開催)に参加し、平塚工場における環境への取り組みの内容²を市民のみなさまに広く紹介しました。

1「環境共生型企業懇話会」

平塚市経済部工業労政課の呼びかけにより、平成12年に平塚市内の有志企業が中心となり発足しました。環境に関する情報交換、環境関連施設の見学会、環境フェア開催などの活動を行っています。

2 出展内容

環境フェアに出展した展示パネルには、以下の内容を掲載しました。(A1サイズ4枚)

環境宣言

環境に配慮した製品(脱塩ビ包材の使用、リサイクルマークの表示 等)

ファミリー文化研究所「ペコちゃんの森」

平塚工場での環境活動

・ISO14001認証取得・省エネ活動・ゴミの分別とリサイクル・環境保全活動(丹沢植樹活動への参加)

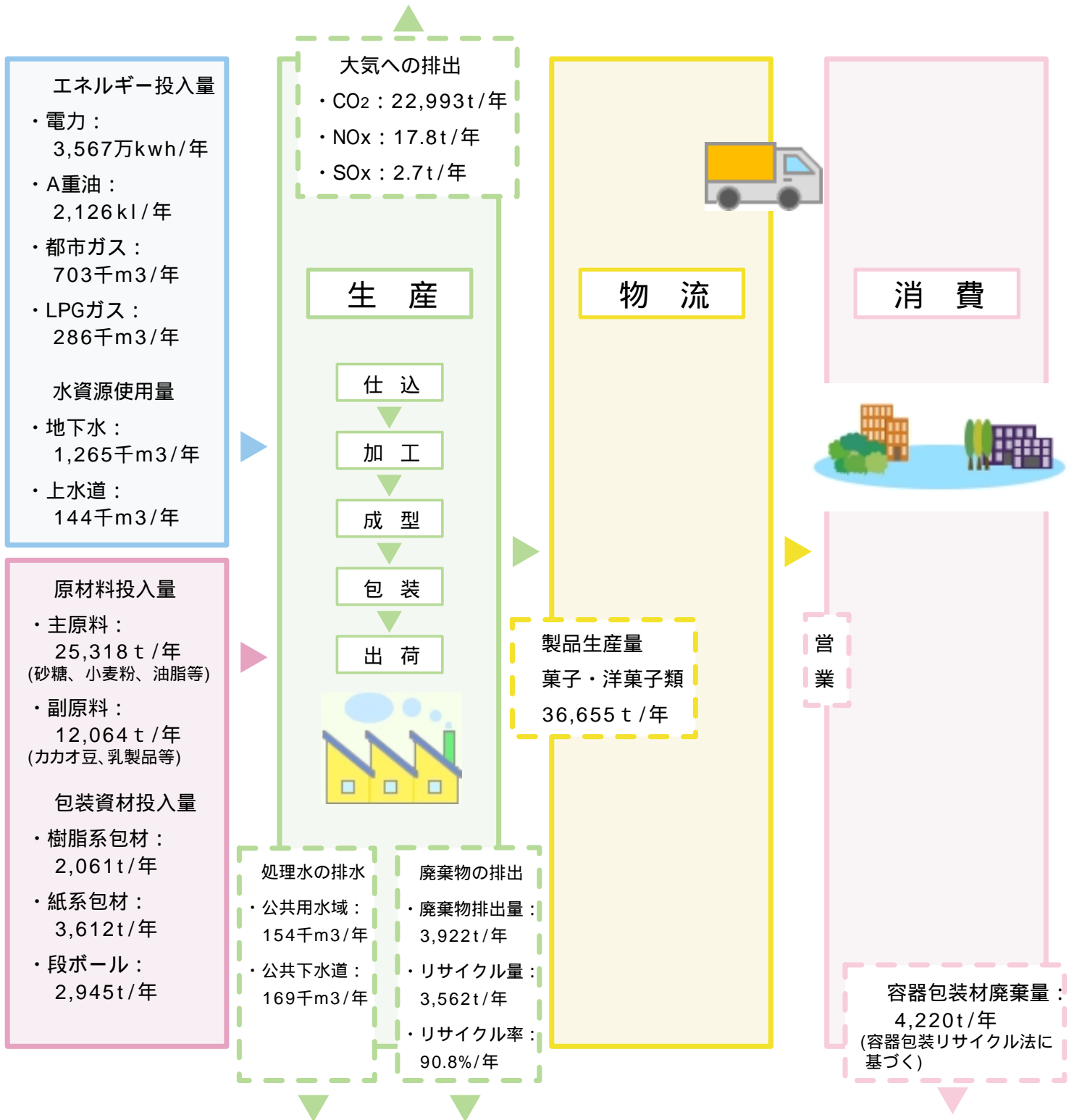
その他:「環境報告書2003(CD-ROM版)を無料配布。





事業活動のマテリアルバランス

2003年度 製造4工場のマテリアルバランス





環境マネジメント

(1)環境目的・目標および実績概要

認証取得4工場は環境宣言に基づく基本方針中の省資源・省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクルの向上、環境汚染物質排出量の削減、及び地域における緑化・環境美化活動への参加、環境保全への支援活動に取り組みました。以下が実績の概要です。

2002年度との比較

【対象工場:ISO14001認証取得工場 富士裾野、平塚、秦野、野木】

☺:達成 ☹:未達成

目的	2003年度目標	2003年度実績	記載頁	評価
省資源・省エネルギー	使用電力の削減	・目標値からさらに - 6.9%で達成	15頁	☺
	電力：基準年度比2.2%の削減	電力：基準年度比9.1%の削減		
	使用燃料の削減	・目標値を削減し達成	15頁	☺
	A重油： 基準年度比4.0%の削減	A重油： 基準年度比4.0%の削減		
	LPG：基準年度比1.0%の削減	LPG:基準年度比8.3%の削減		
	水資源使用の削減	・目標値より + 2.5%で未達成	16頁	☹
	地下水： 基準年度比3.3%の削減	地下水： 基準年度比0.8%の削減		
OA用紙使用の削減	・目標値からさらに - 2.9%で達成	16頁	☺	
OA用紙： 基準年度比5.2%の削減	OA用紙： 基準年度比8.1%の削減			
廃棄物の削減	廃棄物の排出削減	・目標値を削減し達成	17頁	☺
	廃棄物： 基準年度比20.0%の削減	廃棄物： 基準年度比20.3%の削減		
廃棄物のリサイクル	廃棄物のリサイクル率の向上	・目標値以上をリサイクルし達成	18頁	☺
	リサイクル率： 排出廃棄物の90.0%以上を再利用化する	リサイクル率： 排出廃棄物の90.8%を再利用化した		
環境汚染物質排出量の削減	廃水処理量の削減	・目標値より + 19%で未達成	19頁	☹
	廃水処理量： 基準年度比4%の削減	処理水排出量： 基準年度比より15%の増加（4工場）		
環境保全活動への参加	環境保全活動への参加	廃棄物不法投棄防止活動、及び行動美化活動に参加。目標達成	23頁	☺
	地域の環境美化活動への参加	・地域の環境美化活動に参加		
緑化・環境美化活動	工場敷地内の緑化	・目標植樹の達成(3工場)	23頁	☺
	敷地内植樹： 年間計画で10本の植樹	・3工場で敷地内植樹を実施（10本/年）		
環境教育	環境マネジメントシステム教育の実施	・2003年度環境教育計画の策定と実施	11頁	☺
	内部環境監査員教育の継続実施	・2003年度内部監査員教育の実施		



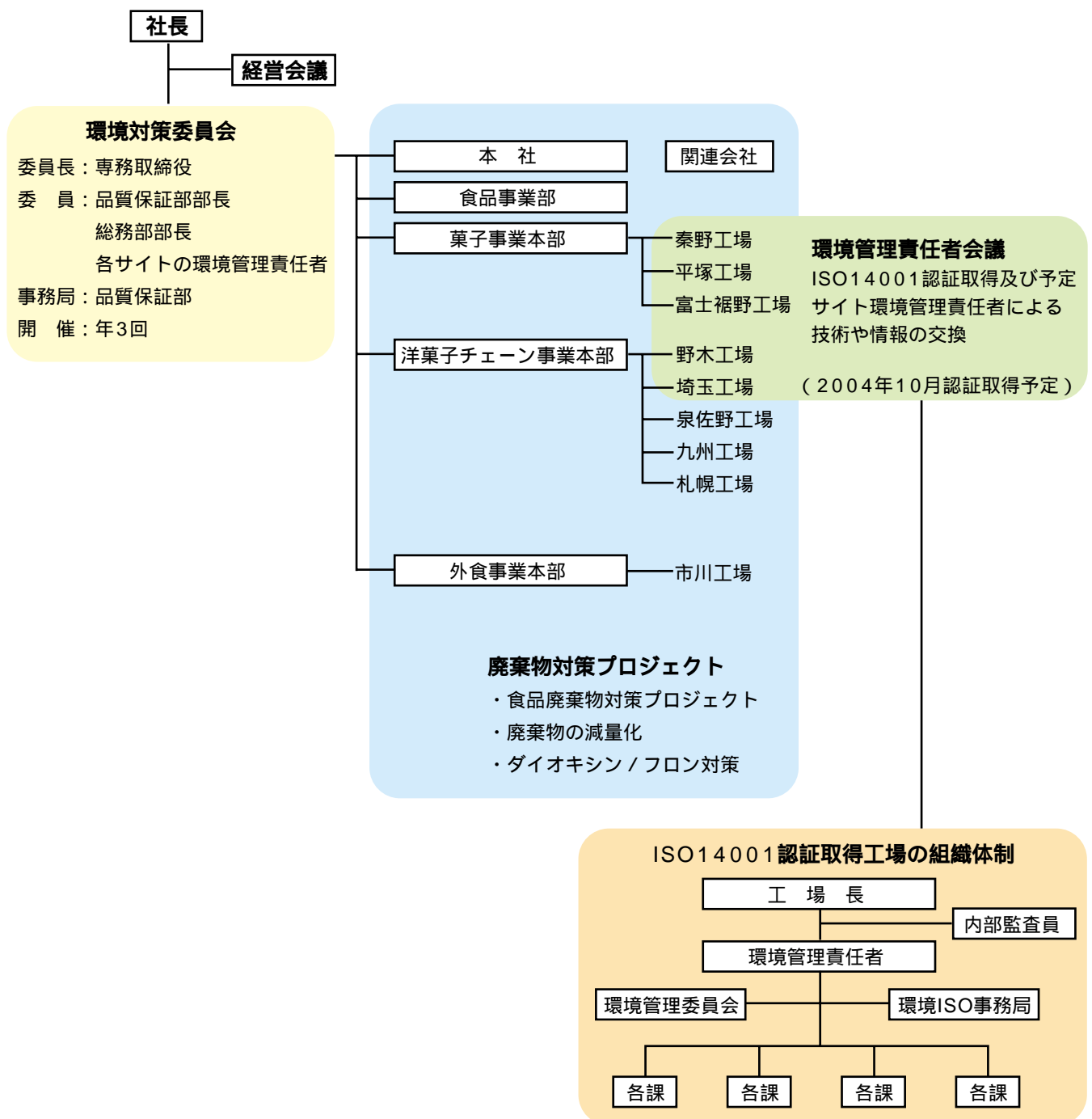
環境マネジメント

(2) 環境推進体制

不二家は、環境宣言に基づき、環境対策委員会を設置し、会社全体の環境活動に関する取り組みを検討し、推進してきています。また、ISO14001の認証を取得した事業所では、それぞれ工場長を委員長とした「環境管理委員会」を設置し、EMSで設定した目的・目標の達成のための具体的な取り組み状況とその結果としてのパフォーマンス達成状況を毎月確認し、改善活動を推進してきています。さらに同事業所間では、環境管理責任者会議を定期的に開催し、事業所間の技術や情報の交換による環境マネジメントシステムの質の向上を図っています。

推進体制

2004年3月末日現在





環境マネジメント

(3) ISO14001への取り組み

ISO14001 認証取得状況

2003年4月末までに、国内の4工場(研究所を含む)で、環境マネジメントの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。現在、埼玉工場において、2004年度の認証取得に向けて取り組んでいます。工場ごとに環境マネジメントシステムを構築し、Plan(計画)-Do(実施及び運用)-Check(点検及び是正処置)-Action(経営層による見直し)サイクルを回し、継続的改善を図っています。

ISO14001の認証取得状況

年月	事業所	所在地	取り組み状況	認証機関
2001年4月	富士裾野工場	静岡県	認証取得 認証更新 (2004年4月)	JACO
2002年4月	平塚工場	神奈川県	認証取得	JACO
2002年4月	秦野工場	神奈川県	認証取得	JACO
2003年4月	野木工場	栃木県	認証取得	JACO
2004年10月	埼玉工場	埼玉県	取得予定	JACO

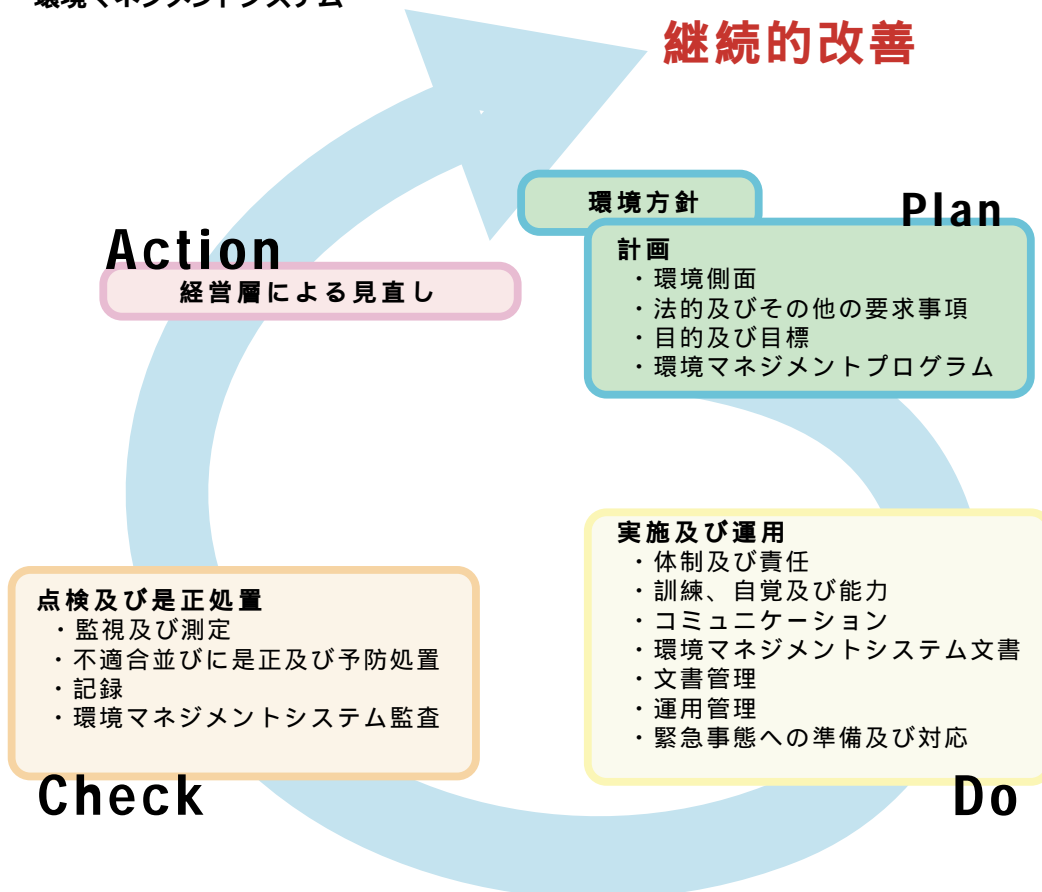
認証登録証



(野木工場)

環境マネジメントシステム

継続的改善





環境マネジメント

(3) ISO14001への取り組み

内部環境監査

ISO14001認証取得工場では、不二家の内部環境監査員資格をもった監査員が、各工場毎に相互に連携し、内部環境監査を行い、環境マネジメントシステムが適切に実施、維持されていることを確認しています。内部環境監査の結果は経営層に報告し、環境マネジメントレビューの際の、重要な資料としています。

2004年度は内部環境監査員の養成をさらに推進する予定です。

各工場の内部環境監査員数

事業所	内部環境監査員数人)	前年度比
富士裾野工場	19	4名増員
平塚工場	27	8名増員
秦野工場	31	7名増員
野木工場	11	1名増員



(野木工場での様子)



(秦野工場での様子)

ISO14001認証更新審査



(富士裾野工場での様子)



環境マネジメント

(3) ISO14001への取り組み

環境教育

環境マネジメントシステムの運用には、システムを運用する従業員ひとりひとりの意識の向上、適切な知識が欠かせません。ISO14001認証取得工場では、全従業員を対象とした環境教育や内部監査員教育を実施し、知識レベルの向上に努めるとともに、緊急事態を想定した訓練・テストを実施し、環境への影響の予防及び負荷の低減に努めています。

環境教育



(2003年度 内部環境監査員教育の様子)



(平塚工場での職場環境教育の様子)

緊急状態を想定した訓練の様子



(秦野工場での重油漏洩事故を想定しての訓練の様子)



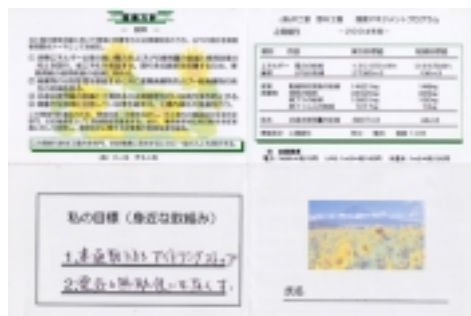
(富士裾野工場でのLPGバルクタンク漏洩を想定しての訓練の様子)

自分の役割を書いたカード



(野木工場での様子)

自分の役割、責任を書いたカードを携帯し、各人が積極的に環境活動に取り組んでいます。





環境マネジメント

(4) 法令等の遵守状況

環境関連法規制及び自主管理基準について、ISO14001に基づいた管理を行い法規制遵守に努めています。また、地域の環境保全のために、富士裾野工場では静岡県裾野市と「裾野市公害防止協定」を締結しています。

また、不二家の生産工場に適用される主な環境関連法は以下の通りです。

2003年度も、不二家の全工場・事業所において、環境法令の遵守に努めました。

大気汚染防止法

水質汚濁防止法

自動車NOx、PM法

廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)

食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)

資源の有効な利用の促進に関する法律

容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)

フロン回収破壊法

騒音・振動規制法

エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネルギー法)

食品衛生法

労働安全衛生法

自治体との公害防止協定 等



冷却排水を利用して設置したビオトープ(富士裾野工場)



環境マネジメント

(5) 環境会計

不二家では、環境への取り組みに関わる投資と効果を把握することにより、さらに効率的な取り組みを推進していく目的で、環境会計(*2)を導入しました。集計にあたっては、環境省の「環境会計ガイドブック2002年版」を参考としました。

2002年度導入の結果、事業活動における環境保全の為に費用と、環境マネジメント活動を通じて得られた経済効果の定量的な把握と評価が可能になりました。

2003年度は、集計範囲に新たに野木工場を追加しました。

2003年度環境会計

集計範囲：富士裾野工場、平塚工場、秦野工場、野木工場の合計値

集計期間：2003年4月1日～2004年3月31日

単位：千円(消費税込)

環境保全コスト			
分類	主な取組の内容及びその効果	投資額 (千円)	費用額 (千円)
(1)生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を制御するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		117,744	142,009
内訳			
公害防止コスト	大気汚染、騒音振動、水質汚濁、悪臭、土壌汚染等の公害防止設備及び監視分析測定	38,099	65,316
地球環境保全コスト	電力、A重油、その他エネルギー資源の削減活動	79,645	1,793
資源循環コスト	廃棄物発生抑制 産業・一般廃棄物処理費用		74,900
(2)生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)	容器包装リサイクル法委託金		52,245
(3)管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	社員環境教育費用 ISO14001定期審査費用、EMS維持、運用費用 管理活動効率化、その他		9,747
(4)研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)			-
(5)社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	環境保全団体支援金 環境活動広告 地域環境保全活動参加費用		643
(6)環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)	汚染負荷量賦課金		434
環境保全コスト合計		117,744	205,078

環境効果

経済効果		
内容	対前年削減費用 (千円)	対前年比 (%)
エネルギー削減効果	20,705	97.25
廃棄物削減効果	2,583	96.71
合計	23,288	97.20

環境保全効果	
内容	対前年比
総エネルギー消費量	2.30%削減
総水使用量	1.28%削減
総廃棄物排出量	5.76%削減
リサイクル率	0.6ポイント減少
CO ₂ 排出量	2.15%削減

* 環境保全効果の対前年比の値は、リサイクル率については前年との差、他の項目は単位製造量(t)当たりの値の増減率を求めたものです。

(*2)巻末の用語集をご参照ください



環境保全活動

(1) 省資源・省エネルギーへの取り組み

地球温暖化防止のためのCO₂排出量削減として、省エネルギー活動を推進しています。

設備の適性運転

2003年度においては旧式な空調設備の廃棄と更新、更には工場内の照明設備のインバーター化を進め、電力の変圧ロスを改善する設備の導入、配管での熱ロス防止の改善等、エネルギー使用量の削減に取組みました。

電力変圧器を省エネルギータイプへ

秦野工場では、電力の変圧ロス(電圧変換時に発生)を削減する事が出来るアモルファス変圧器への更新を順次行なっています。

配管での放熱防止の改善

平塚工場では、冷水・温水配管の熱ロスを防止した保温の改善を行なっています。

省エネタイプの蛍光灯に更新

2003年度も引き続き工場の照明灯を省エネタイプ(インバーター)に更新しました。

CO₂排出量抑制

2003年度は、平塚工場でのボイラー燃料を都市ガス(LNG)へ転換した事により富士裾野、平塚、秦野の各工場では前年比-3.6%と削減出来ました。集計値では野木工場が加わりましたので、全体では増加となっています。しかし、単位生産量あたりでは全体で前年比2.1%の削減でした。

フロン対策

当社では、二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの排出抑制に努めるために冷却・冷凍設備に利用されている冷媒について、大気中への漏洩防止に努める為に徹底した設備の管理に取り組んでおります。

2003年度については特定フロン(*3)設備の廃棄、及び代替フロン(*4)(HCFC-22)の排出量を抑制する事ができました。

代替フロン(*4)(HCFC-22)排出量の推移(単位:kg)

年度	2001	2002	2003
HCFC-22	933	626	395



インバーター化の空調機(秦野工場)



アモルファス型電力変圧器(秦野工場)



配管での放熱防止(平塚工場)

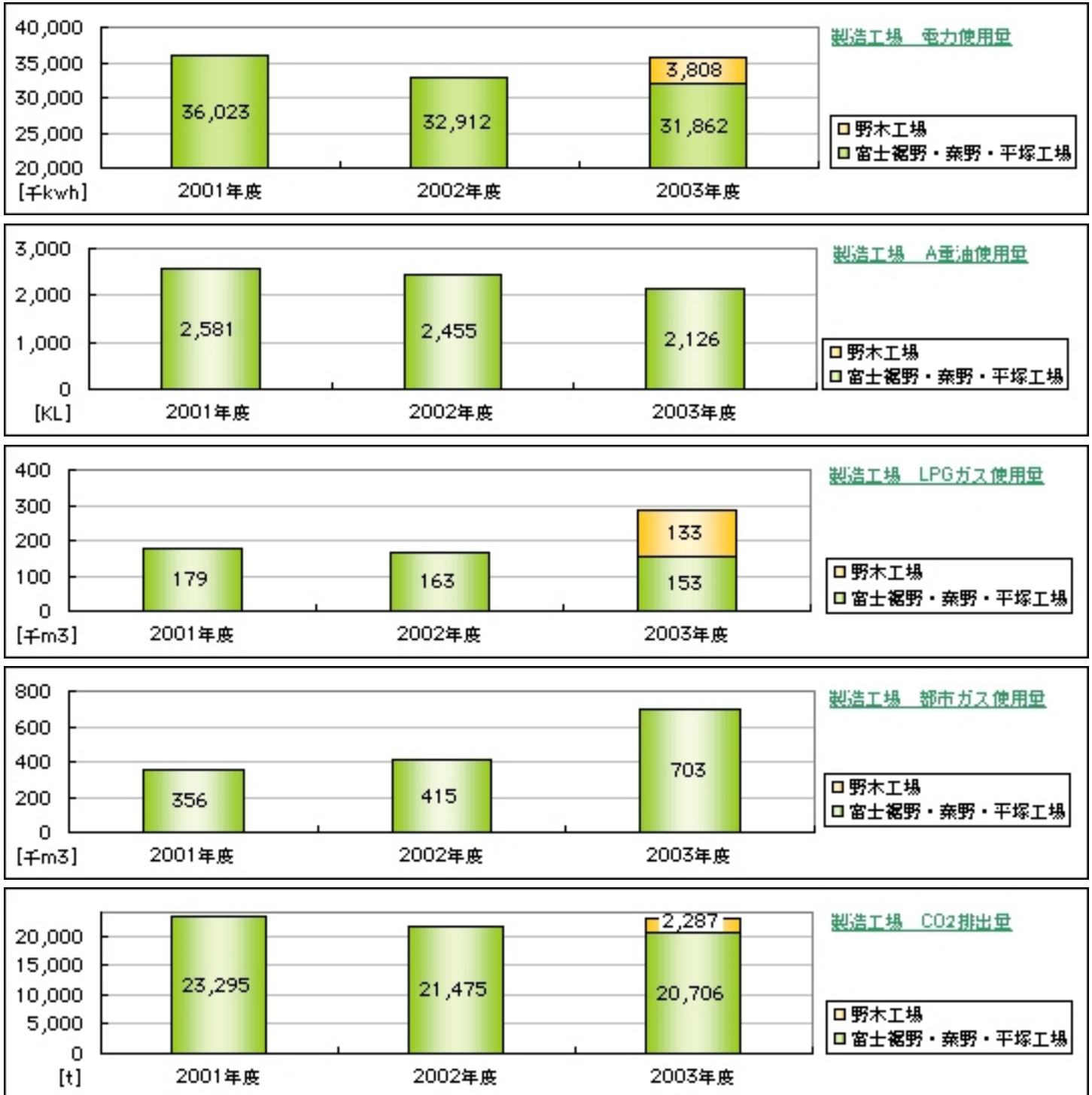
(*3)(*4)巻末の用語集をご参照ください。



環境保全活動

(1) 省資源・省エネルギーへの取り組み

ISO14001 認証取得工場の省エネルギー



2003年度から集計対象に野木工場が加わったため、全体の集計値は増加しましたが、2001年度から集計を行っている富士裾野・秦野・平塚の3工場については、省エネルギー対策の実施等により各工場の電力、LPG、A重油の使用量を削減しました。

都市ガスの使用量の増加は、CO₂排出量を抑えるためにA重油から都市ガス(LNG(*5))にエネルギー転換を行ったことによるものです。

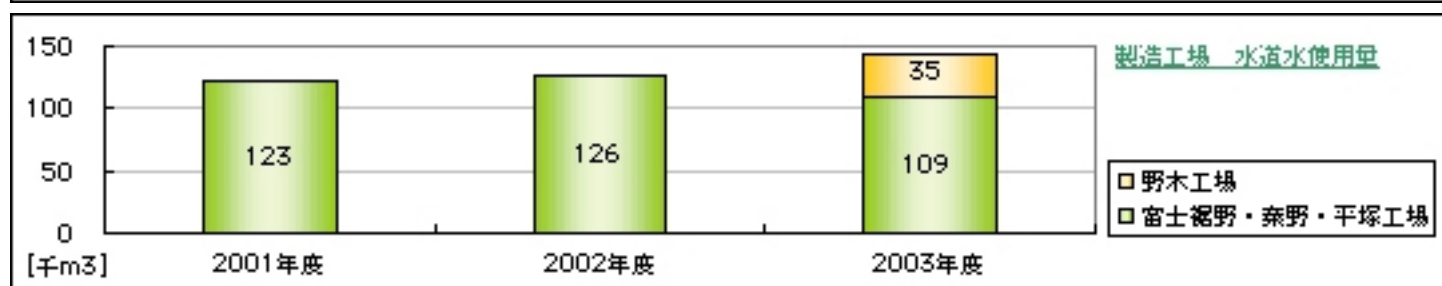
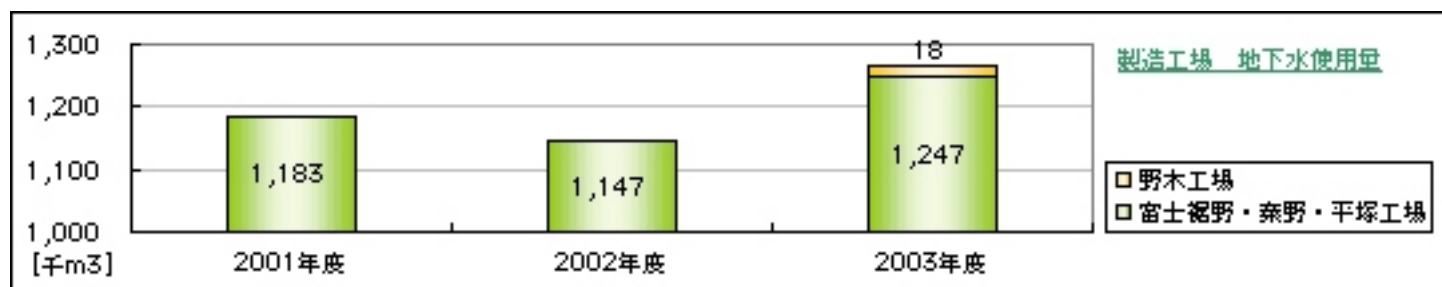
(*5)巻末の用語集をご参照ください。



環境保全活動

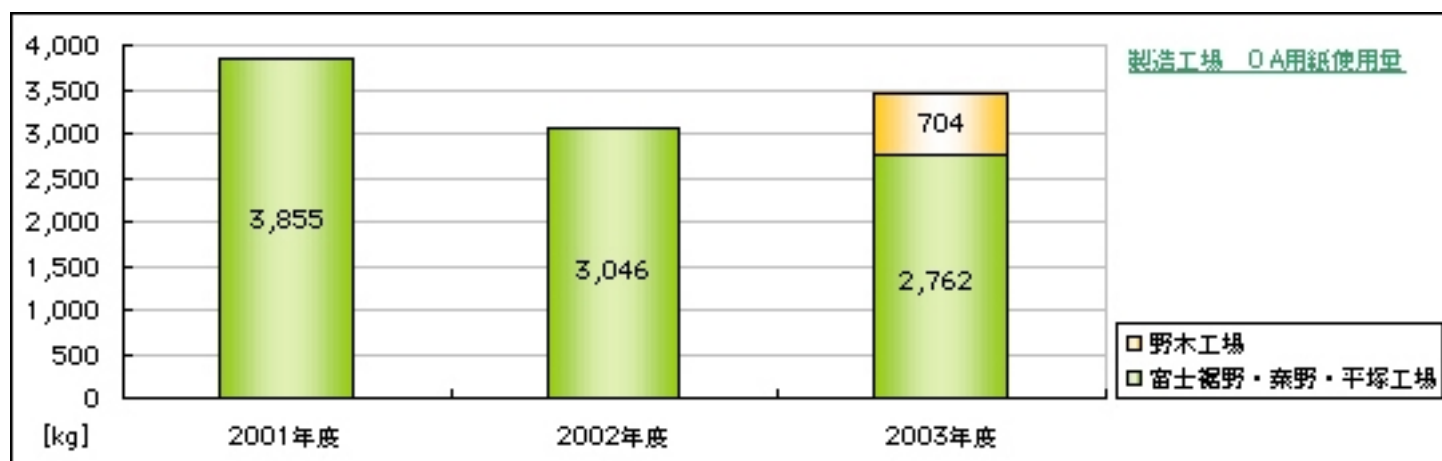
(1) 省資源・省エネルギーへの取り組み

ISO14001 認証取得工場の省資源



認証取得4工場での省資源の目標として地下水の使用量の削減に取り組んでおります。節水冷却型の設備、クーリングタワーの更新等を進めるとともに工場各職場での節水の啓蒙活動に取り組みました。2003年度においては生産量の増加により地下水の使用量が増え削減目標を達成できませんでした。更に集計値では野木工場が加わりましたので、全体では増加となりました。単位生産量あたりでも全体で前年比1.3%の増加でした。

ISO14001 認証取得工場のOA用紙使用量 (107~109期)



認証取得4工場では、事務用紙の削減の為に両面印刷の徹底、会議資料の電子化、社内イントラネット化での情報共有の手段により印刷用紙の削減に努めています。



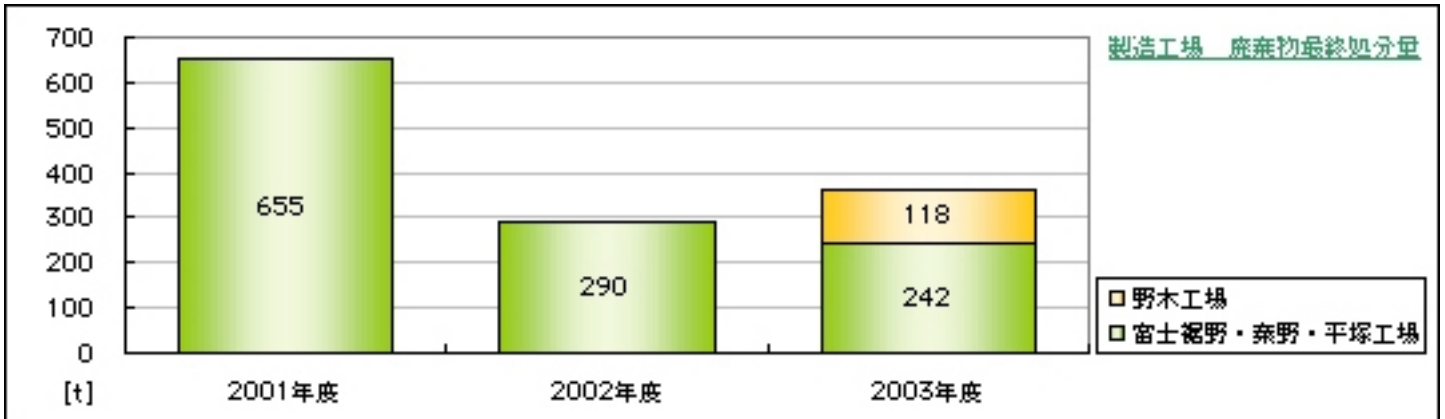
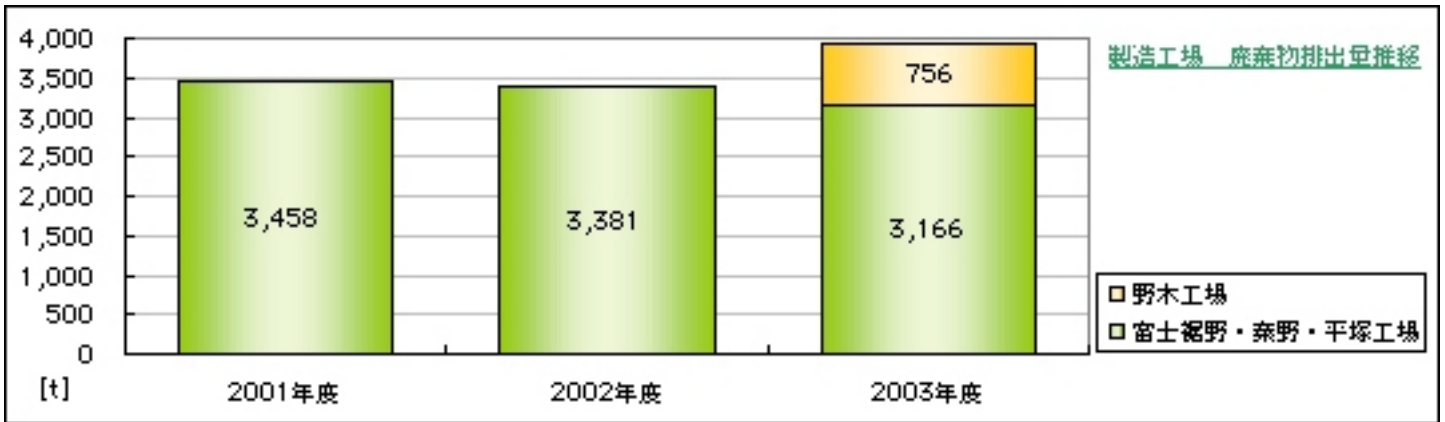
環境保全活動

(2) 廃棄物の減量化とリサイクルへの取り組み

リデュース(発生抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)の3Rの考え方を基本に、廃棄物の減量と再資源化の推進に取り組んでいます。



2002年度までのISO14001取得工場(富士裾野・秦野・平塚)においては廃棄物排出量および最終処分量(焼却・埋立て)を削減することができました。



菓子包装の工程では、連続して自動的に包装機によって密封されますが、包装不良(密封不良)が発生すると多量の包装フィルムが廃棄物となります。

秦野工場では包装フィルムの廃棄物の発生量を減らす為に包装ラインを連続して監視する装置を設置し、廃棄物の発生を防止しています。



洋菓子チェーン事業本部では、工場から店舗へ商品を運ぶ際に番重(ばんじゅう)を再利用することで、廃棄物の発生を抑制しています。

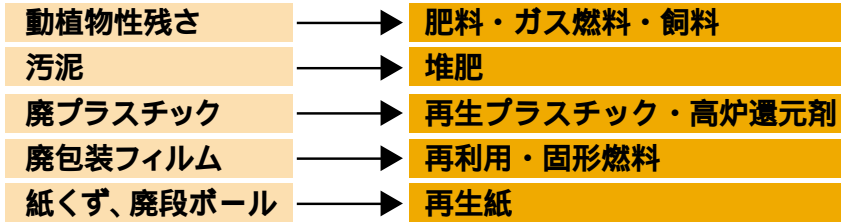


環境保全活動

(2) 廃棄物の減量化とリサイクルへの取り組み



主な廃棄物のリサイクル



処理先の選定:

廃棄物の処理に際しては、再利用、再資源化が可能な処理先を選定し、リサイクル率向上を進めています。

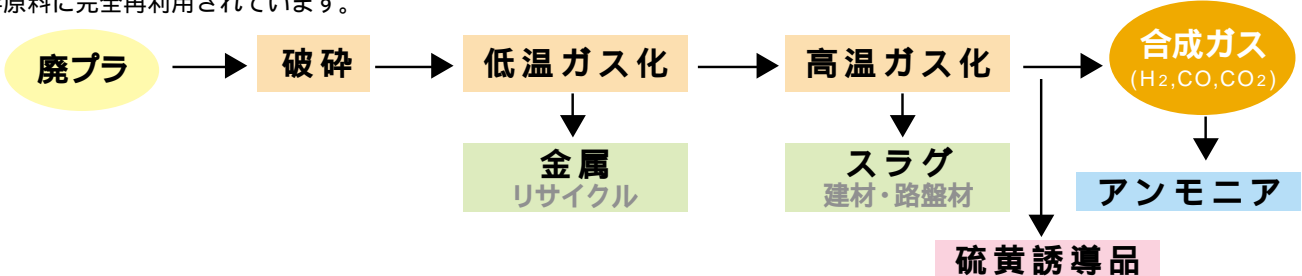
農業技術マーケティング社で養豚飼料に

秦野工場では(株)農業技術マーケティング社(AMC行徳飼料工場)にて当工場から出る仕込原料屑(食品残さ)を飼料化しています。AMC行徳飼料工場では「廃棄物の処理」ではなく、「飼料製造」という観点から様々な食品廃棄物を飼料原料として成分調製、乾燥し、農林水産省から認可された「動植物性食品副産物乾燥飼料」として製造・販売しています。良質で本格的な食品残さ飼料と、養豚家の評価は高く、需要が増え続けています。



廃プラスチックから化学原料へ

現在秦野工場では排出した廃プラスチックの再利用先として固形燃料(RPF)、及び高炉還元剤のサーマルリサイクルを行っていますが、新たに廃プラスチックから化学原料として再利用するプラスチックケミカルリサイクル事業を展開されている昭和電工(株)社においても処分を行っています。ここでは、廃プラスチックからガス化(低温 高温の2段階処理)によって水素、アンモニア(商品化:エコアンモニア)、塩素、硫黄誘導品等の化学原料に完全再利用されています。



レストランでの取り組み

不二家レストランでは、レストランから発生する食品廃棄物について、これまで排出量の把握、業態・売上高と排出量の関係の分析など進めてきましたが、2003年度は、食品リサイクルの実用実験を実施しました。

ISO14001 認証取得工場の廃棄物減量とリサイクル率向上

2001年度、2002年度の集計対象は、秦野工場、平塚工場、富士裾野工場です。

2003年度の集計対象には、上記3工場に野木工場が加わります。

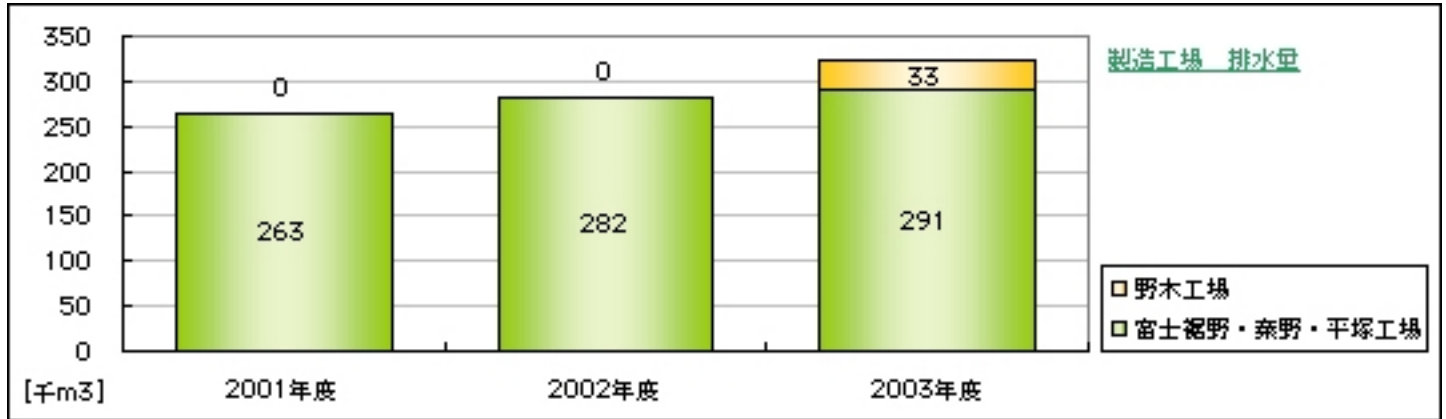
	2001年度	2002年度	2003年度
総廃棄物量(Kg)	3,457,599	3,381,325	3,922,622
リサイクル量(Kg)	2,802,315	3,091,183	3,562,554
リサイクル率(%)	81.0	91.4	90.8



環境保全活動

(3) 環境汚染物質排出量の削減への取り組み

総排水量とその低減対策



総排水量については、排水量の抑制の為に工場の各所では設備、器具等の洗浄手順を作成し排水の抑制に努めていますが、2003年度は生産量の増加により洗浄水量が増え、目標を達成できませんでした。

化学物質排出量・移動量及びその低減対策

不二家では食品の分析およびパイオ技術研究の為に施設を秦野工場に隣接して設けております。そこで使用する化学物質に関しては「試薬管理手順」を作成し、安全管理の徹底を行っています。『特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律』(PRTR法(*6))に基づき取扱量の毎年の調査結果2003年度は法で定める要件に該当する量は取り扱いませんでした。今後も化学物質の管理の徹底を図り、取扱量の削減に努めます。

取扱量として多い化学物質	()の数字は2003年度取扱量
ジクロロメタン	(923kg)
ジメチルホルムアミド	(825kg)
アセトニトリル	(357kg)

輸送に係る環境負荷の状況及びその低減対策

低公害車の積極導入

環境負荷を低減するために、ハイブリッド型の低公害車を積極的に導入しています。現在、関東地区のデリバリー車(68台)の約4割に導入しています。また、輸送用の大型車についても、ハイブリッド式冷凍車を導入し、排気ガスの排出を減らしています。さらに、順次DPF(*7)装置を取り付けており、PM(粒子状物質)(*8)の除去に努めています。



出荷量の増減にあわせた車両の適正な運用

出荷量にあわせて輸送に関わる車両数を管理することにより、待機車両の台数を減らしています。

年度	台数	増減	備考
2001年	81台		
2002年	72台	9台減	
2003年	68台	4台減	

(*6) (*7) (*8)巻末の用語集をご参照ください。



環境保全活動

(4) 環境に配慮した商品設計

製品の容器や包装については、製品をおいしく安全にお客様にお届けする品質保持の役割と、省資源や廃棄時の環境負荷低減という環境配慮の両面から取り組みを進めています。

ハートフルガーデン

中の仕切り台の材質を、プラスチックから環境にやさしい紙に変えました。



ホームパイ (リッチバター)

商品の簡素化およびゴミの排出量を削減する目的でトレーをなくしました。



(旧製品)



トレーのない包装形態に規格変更しました。

(5) グリーン購入(*9)

不二家本社では、使用する事務用品に関して、グリーン購入(*9)を行っています。また、社内で使用するコピー用紙や封筒はリサイクル用紙を使用しています。不二家はオフィスにおいても環境配慮型商品の購入を通じて環境保全活動を進めています。

(*9)巻末の用語集をご参照ください。



環境保全活動

(6) 環境コミュニケーション

環境報告書を作成・ウェブサイトでの発信

2003年7月に、不二家の2002年度の環境活動・取り組みをまとめた「環境報告書2003」を発行いたしました。

また、「環境報告書2003」の内容を不二家のウェブサイトからも発信しています。

<http://www.fujiya-peko.co.jp/company/kankyo/>

2003年度の環境活動の取り組みについては、「環境報告書2004」でご報告します。



環境報告書に対するお問い合わせ状況

「環境報告書2003」に関して、現在（2003年7月から2004年5月）までに、全19件のお問い合わせを頂きました。個人、自治体、企業など様々な立場の方から報告書の送付や不二家の環境への取り組みに関する内容のお問い合わせでした。

地域社会とのコミュニケーション

『ひらつか環境フェア』

平塚工場では、環境共生都市を目指す平塚市と平塚市環境共生型企业懇話会¹が主催する「環境フェア」（2004年2月3～10日 平塚市役所 1階 市民ホールにて開催）に参加し、平塚工場における環境への取り組みの内容²を市民のみならず幅広く紹介しました。

1 「環境共生型企业懇話会」

平塚市経済部工業労政課の呼びかけにより、平成12年に平塚市内の有志企業が中心となり発足しました。環境に関する情報交換，環境関連施設の見学会，環境フェア開催などの活動を行っています。

2 出展内容

環境フェアに出展した展示パネルには、以下の内容を掲載しました。

（A1サイズ4枚）

環境宣言

環境に配慮した製品（脱塩ビ包材の使用，リサイクルマークの表示 等）

ファミリー文化研究所「ペコちゃんの森」

平塚工場での環境活動

- ・ ISO14001認証取得
- ・ 省エネ活動
- ・ ゴミの分別とリサイクル
- ・ 環境保全活動（丹沢植樹活動への参加）

その他：「環境報告書2003」（CD-ROM版）を無料配布。





社会貢献活動

不二家では、地域社会と協力し合って地球環境の保全に取り組んでいます。

ファミリー文化研究所

ファミリー文化研究所では、自然文化創造会議（CCC）の副議長を務める作家のC・W・ニコル氏との協力で、長野県最北部（黒姫山の隣にある飯綱山麓）に2000坪強の敷地を取得しました。私たちはこの敷地を『ペコちゃんの森』と名づけ、「C・W・ニコル・アフアの森」の一画として、運営しています。

現在は、熊笹や灌木の覆い茂った藪そのものです。これから時間をかけて笹を刈り取り、不要な木を伐採して地面に日光を導き、ブナやトングリを始めとする木や草が生い茂る明るい森を作ってゆきます。



「親子でケーキ作り」等を通じた社会貢献活動

洋菓子チェーン事業本部では、スイーツの美味しさや楽しさをお客様に伝えていきたいと考え、全国各地で合計800組（1600名）のみなさまを弊社主催のイベント「親子でケーキづくり」にご招待しました。

当日はケーキバイキングやペコちゃんとの記念撮影に加え、実際にケーキ製作を体験してもらうなど、盛りだくさんの内容をご用意。小さなお子様からご年配の方々まで、みなさまに楽しんでいただきました。



「親子でケーキづくり」告知画面



社会貢献活動

緑化活動

各工場敷地の緑化は環境マネジメントシステムでの目標にも取り入れ、工場での植林を進めています。2003年度は植樹目標本数の10本を達成しました。また、平塚工場では、「丹沢の緑を育む集い」にボランティアとして参加し、神奈川県丹沢の大倉尾根においては昨年到现在も千年樹の植林を行いました。



秦野工場の植樹



千年樹の植樹

環境美化活動

全国の事業所で、地域の環境美化活動に協力しています。平塚工場では、1965年以来、「相模川をきれいにする協議会」に参加し、清掃活動をはじめ、さまざまな活動に参加しています。また、秦野工場では秦野地区廃棄物対策協議会に参加して不法投棄回収活動を行っています。さらに、富士裾野工場、野木工場では工場周辺の道路の清掃活動を行っています。



相模川をきれいにする協議会



富士裾野工場周辺の清掃活動



秦野工場の不法投棄回収活動





不二家の環境への取り組みの歴史

当社では、生産工場における公害防止の取組みや地域協定の締結、更に省エネルギーの取組みとして小型貫流ボイラー設備の導入など、環境保全に関する取組みを行い、全社的には1999年9月環境対策委員会を設け、積極的に環境問題への行動がスタートしました。当社が環境との調和を目指して環境問題に具体的に取組み、社会貢献に努めてまいります。

年	不二家の環境への取り組み		世の中の動き
1967年			・公害対策基本法制定('67)
1968年	8月	秦野工場完成	
	11月	埼玉工場完成	
1969年	7月	野木工場完成	
1971年	5月	泉佐野工場完成	・環境庁 設置('71)
			・国連 人間環境会議開催('72)
			・公害健康被害補償法制定('73)
			・オゾン層保護法制定('88)
1988年	5月	平塚工場 小型貫流ボイラー(高効率ボイラー)導入	・水質汚濁防止法改正('89)
1990年	6月	富士裾野工場完成	・地球温暖化防止行動計画閣議決定('90)
	7月	平塚工場 脱臭装置(ココア臭低減)設置	
1991年	8月	富士裾野工場 静岡県裾野市と公害防止協定を締結	・再生資源の利用の促進に関する法律制定('91)
	9月	埼玉工場 小型貫流ボイラー2基導入	・地球サミット-リオデジャネイロ開催('92)
1993年	5月	秦野工場 排水処理施設として加圧浮上装置導入	・環境基本法 制定('93)
	6月	秦野工場 特別高圧変電設備設置	
			・容器包装リサイクル法制定('95)
1996年	6月	富士裾野工場 嫌気性排水処理の増設	・ISO14001 JIS規格化('96)
	7月	平塚工場 脱臭装置(ココア臭低減)増設	・経団連 環境アピール宣言('96)
1997年	3月	平塚工場 全ボイラーを小型貫流ボイラーへ転換完了	・気候変動枠組条約第3回締約国会議('97) (COP3) 日本：京都
	6月	秦野工場 全ボイラーを小型貫流ボイラーに転換	
	9月	秦野工場 ターボ冷凍機導入(省エネルギー-対策) 京都議定書採択	
1998年	6月	全社 『脱塩ビ宣言』 2000年までに塩ビ素材の使用廃止を宣言	・地球温暖化対策推進法制定('98)
			・家電リサイクル法制定('98)
	8月	埼玉工場 主排水配管にグリーストラップ設置	・省エネルギー法改正('98)
1999年	8月	秦野工場 第一種電気エネルギー管理指定工場に指定	・PRTR法制定('99)
		埼玉工場 第二種電気エネルギー管理指定工場に指定	
	9月	平塚工場 第一種電気エネルギー管理指定工場に指定	・ダイオキシン対策特別措置法制定('99)
	9月	全社 環境対策委員会の設立 省エネルギー、廃棄物対策、オゾン層破壊防止対策、等 環境問題に取組みの開始	
	12月	平塚工場、秦野工場 廃棄物焼却炉廃止	
2000年	2月	『不二家 環境宣言』の制定	・容器包装リサイクル法完全実施('00)
		ISO14001認証取得の取組み開始	・循環型社会形成推進基本法制定('00)
	5月	容器包装リサイクル法に対処	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律改正('00)
	11月	埼玉工場 全ボイラーを小型貫流ボイラーへ転換	
	12月	富士裾野工場 廃棄物焼却炉廃止	・食品リサイクル法制定('00)
			・グリーン購入法制定('00)
			・建設リサイクル法制定('00)
2001年	4月	富士裾野工場 ISO14001認証取得	・環境省設置('01)
	8月	埼玉工場 全小型貫流ボイラーを都市ガス化	・フロン回収・破壊法制定('01)
			・PCB特別措置法制定('01)
2002年	4月	平塚工場 ISO14001認証取得	・新『地球温暖化対策推進大綱』決定('02)
		秦野工場 ISO14001認証取得	・地球サミット-ヨハネスブルク開催('02)
	10月	埼玉工場 廃棄物焼却炉廃止	
	11月	『不二家 行動規範と行動指針』の制定	・自動車NOX法制定('02)
	12月	野木工場 廃棄物焼却炉廃止	・京都議定書批准('02)
2003年	3月	平塚工場 全小型貫流ボイラーの都市ガス化完了	・土壤汚染対策法施行('03)
	4月	野木工場 ISO14001認証取得	・環境教育推進法施行('03)
	7月	環境報告書(2003年版)の発行	・食品安全基本法施行('03)
	9月	改訂 『不二家 環境宣言』の制定	
	10月	埼玉工場 ISO14001構築・運用開始	
	11月	埼玉工場 排水処理施設改善改修工事	
2004年	2月	埼玉工場 電力高圧トランスをアモルファスタイプへ更新	
	4月	富士裾野工場 ISO14001認証登録更新	



会社概要

(2004年3月末日現在)

社名(商号)	株式会社 不二家	
本社所在地	〒104-8181 東京都中央区銀座7-2-17	
創業	1910(明治43)年11月	
代表者	藤井林太郎	
会社設立	1938(昭和13)年6月	
社是	愛と誠心まごころと感謝を込めて、お客様に愛される不二家になりましょう	
経営理念	常によりよい商品と最善のサービスを通じて、お客様に美味しさ、楽しさ、便利さ、満足を提供し、社会に貢献することが不二家の使命です。	
資本金	63億1722万円	
売上高	886億円(連結)/790億円(単体)(2004年3月期)	
従業員数	正社員1,254名(男性1,035名、女性219名)	
事業内容	菓子・食品・アイスクリームなどの製造卸売 洋菓子販売チェーン店・喫茶・レストラン・カフェチェーン店の経営 バイオ技術による分析および研究試薬の製造販売不動産事業 他	
主要取引銀行	りそなみずほコーポレート、横浜、三井住友他	
主要関係会社 (50音順)	株式会社甲信不二フード 株式会社不二家ロードサイドレストラン() 日本食材株式会社 不二家サンヨー株式会社 不二家乳業株式会社	株式会社ダロワイヨジャパン 株式会社不二家システムセンター 株式会社ユトリア不二家 ピーアール サーティワン アイスクリーム株式会社 不二家テクノ株式会社

(2004年4月1日より株式会社不二家フードサービスに社名を変更しております。)

ファミリーマークについて	ファミリーマークは不二家を象徴するマークです。 「FUJIYAのイニシャルをかたどったこの「F」には、 ・Family(ファミリー)親しみやすい ・Fantasy(ファンタジー)夢 ・Fresh(フレッシュ)新鮮な、などの意味がこめられています。 ・Fancy(ファンシー)お気に入りの ・Flower(フラワー)花
--------------	--



沿革	1910 明治43 年 横浜元町に不二家洋菓子店を創業 1928 大正12 年 レギュラーチェーンの経営に着手 1938 昭和13 年 株式会社不二家 設立 1952 昭和27 年 ミルキー発売商部門の基盤確立 1968 昭和38 年 フランチャイズチェーン方式導入 1964 昭和39 年 不二家ネクター発売 1988 昭和58 年 ペプチドの合成・精製開始 1989 平成元 年 (株)ダロワイヨジャパン設立 1994 平成6 年 九州工場完成 2001 平成13 年 富士裾野工場ISO14001認証取得 2002 平成14 年 平塚工場・秦野工場 ISO14001認証取得 2008 平成15 年 野木工場 ISO14001認証取得
営業部・支店	東京横浜、大阪、福岡、仙台、札幌、新潟、広島、高松など全国の主要都市
店舗	銀座渋谷、横浜、名古屋、心斎橋、博多、札幌などに直営店139店、フランチャイズ店810店
工場・研究所	平塚(神奈川県)、秦野(神奈川県)、富士裾野(静岡県)、埼玉(埼玉県)、野木(栃木県)、泉佐野(大阪府)、九州(佐賀県)、札幌(北海道)、市川(千葉県)に9工場 / 研究所(神奈川県秦野市)



ご報告にあたって

昨年の創刊に続き、ここに当社の2003年度の環境活動をまとめた『2004年環境報告書』をご報告申し上げます。

当社は「環境にやさしい企業」を目指して本社に環境対策委員会を設置し、当社全工場にISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得すべく取り組んでまいりました。本年度も既に取得済みの4工場に続いて埼玉工場で認証取得を目指しております。各工場は、昨年6月に改訂した『環境宣言』に基き、環境目的・目標の設定と環境パフォーマンスの達成に努めて参りました。2003年度は認証取得の工場で水資源の削減ならびに排水処理量の削減で未達成となりましたが、その他の項目ではすべて目的、目標を達成しています。

さらに、廃棄物においてはリサイクル率のアップ等により着実に環境マネジメントのステップアップが図られてきております。環境活動は継続的改善が大切であります。当社は2006年3月迄の中期環境対策計画を策定し、全社員への環境教育、環境コミュニケーションを通じて様々な課題に取り組み、企業倫理の徹底とコンプライアンスに努め、社会的責任を果たしてまいります。本報告書を通して各方面からのご意見、ご要望を戴くと共に御指導、御鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2004年6月
環境対策委員長
専務取締役 小城 修一



用語集

1) ISO14001

国際標準化機構(ISO)が1996年9月に制定した環境管理システム(EMS)の国際規格。

企業の活動、製品またはサービスにおける環境負荷の低減といった環境パフォーマンスの改善を実施するシステム(環境マネジメントシステム：EMS)を構築した組織に対し、第三者機関が認証を与えるというマネジメントシステム規格です。組織のトップが環境方針を出し、環境保全の取り組みのための計画を立案し、全従業員による実施・運用に対して第三者機関による定期的な点検が義務付けられています。

2) 環境会計

企業や自治体など、組織単位における環境部門の費用対効果を把握するための仕組みです。2002年度には環境省によって「環境会計ガイドライン2002」が制定されました。

3) 特定フロン

フロン(クロロフルオロカーボン)中で、オゾン層を破壊する力が特に強いフロン類の総称。この特定フロンより破壊力が弱いフロンが多く、多くの冷蔵庫の冷媒として使われています。

地球温暖化の原因となるオゾン層破壊に特に影響が大きいため、モントリオール議定書で1992年、全廃が決められました。

4) 代替フロン

地球のオゾン層を破壊する物質として国際的に使用全廃が約束されたフロンガスを、機能上代替できる物質のこと。オゾン層破壊効果が少ないHCFC(ハイドロクロロフルオロカーボン)などを指しますが、モントリオール議定書により、2020年までに製造を廃止することとされています。

5) LNG

メタンを主成分とする天然ガスをマイナス162℃に冷却、加圧して液化したもの。再び気化して利用します。原油に比べ埋蔵量が多く、また排出するCO₂が石炭や石油よりも少ないので、環境負荷を低く抑えられます。

6) PRTR法

有害性のある化学物質がどのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを、国、事業者団体等の機関が把握・集計・公表する仕組みを定めた法律です。対象となる化学物質を製造・使用・排出している事業者は、環境中への排出量と廃棄物処理のために事業所の外へ移動させた量を把握し、年に一回報告する義務が課せられます。

7) DPF(ディーゼル微粒子除去装置; Diesel Particulate Filter)

DPFとは自動車(ディーゼル車)の排気管の一部に装着されるフィルター装置のことです。排出ガス中の粒子状物質(PM)を除去する役割を果たします。DPFの構造は、粒子状物質をこし取るフィルターとフィルターの目詰まりを防ぐための再生装置からなっています。

8) PM(粒子状物質; Particulate Matter)

大気中に浮遊する微粒子(粒子状物質)のこと。空気中を長い間ただよって呼吸により人間の肺や気管に入り、その量が多いとぜん息や気管支炎、花粉症の原因になると言われています。そのため、特に粒子の細かい粒子状物質(SPM 浮遊状粒子物質: Suspended Particulate Matter)については人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準(環境基準)が定められています。

9) グリーン購入

グリーン購入とは、商品やサービスを購入する際に価格や品質だけでなく、環境への負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入することです。

平成13年4月から、グリーン購入法(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律)が施行されました。この法律により、国や自治体等の行政機関ではグリーン購入が義務づけられることになりましたが、事業者・国民も自主的にグリーン購入に努めることが求められます。

be fresh, be happy!



ご意見・ご感想をお寄せください。

この環境報告書へのご意見・ご感想などは以下にお寄せください。

みなさまからの率直なお声をお待ちしております。

次年度の環境報告書ならびに弊社の業務内容の参考にいたしたく存じます。

お便りの場合：〒104-8181 東京都中央区銀座7-2-17 株式会社不二家 品質保証部 環境対策担当宛

Eメールの場合：不二家ホームページ内のお問合せ専用フォームをご利用ください。